

完全な橋

第2編第12章

人となる必要があった仲保者



神が私たちのもとに来てくださったのです。神が私たちの姿をとられてこの世界に来られ、私たちと共に同じ立場に立たれ、私たちと共に住み、私たちに代わって父なる神に服従し、私たちに代わって神の刑罰を受けられたのです。ところで完全な橋となるようとするならば、手抜き工事が少しもあってはなりません。つまり私たちの完全な橋である仲保者には罪があってはならないということになります。

川の両岸のこちら側と向こう側をつなぐのが橋であると言えます。それが完全な橋であるならば、こちら側の端からあちら側の端まで完全につながっていなければなりません。片方だけがつながっている橋では何の役にもたちません。もちろん、その橋が中途半端に作られていてもいけないのです。手抜き工事で作られた橋が突然崩壊してたくさんの犠牲者を出す事件もあるようにです。神と人の中には渡ることのできない川が流れています。人間の罪のためにできた川です。そしてイエス・キリストはその両者をつなげる橋なのです。こちら側と向こう側を完全につないでいる橋です。このキリストの橋は人のかけた橋とは違い手抜き工事を心配する必要はありません。頑丈ですし、永遠ですし、そして完全な橋なのです。

第1節 仲保者は真の神であると同時に真の人とならねばならなかった。

神と私たちの間には罪の川が流れています(イザヤ 59:2)。誰も渡ることができない絶望と死の川です。そこで愛と慈しみに満ちた神はその川に救いの橋を架けようとされたのです。その計画は純粋に天における決定から出ています。必ずそうしなければならないというような、外側からの必然性があるってそうされたものではありません。ところで神と人之間を結ぶ橋となるようならばその仲保者は真の神でありながらまた同時に真の人とならなければなりません。その川の両岸から出発しなければならないのです。そうでなければ、行き帰りのできない橋になってしまうでしょう。それでは橋とは言えません。

それならば誰が神の側から出発することができるのでしょうか。アダムの子孫の一人にそのよ

うなことができるでしょうか。それは不可能です。みな罪人だからです。それなら天使ならよいのでしょうか。やはり難しいでしょう。天使も私たちと同じように神に造られた被造物に過ぎないからです(エフェソ1:22、コロサイ2:10)。神ご自身が直接に私たちのところに来られなければ事態は絶望的でした。そこで神はインマヌエルと呼ばれる方(イザヤ7:14、マタイ1:23)、つまり私たちと共におられる神とされたのです。

神が私たちのもとに来てくださったのです。神が私たちの姿をとられてこの世界に来られ、私たちと共に同じ立場に立たれ、私たちと共に住み、私たちに代わって父なる神に服従し、私たちに代わって神の刑罰を受けられたのです。ところで完全な橋となるならば、手抜き工事が少しもあってはなりません。つまり私たちの完全な橋である仲保者には罪があってはならないということになります。

私たちの姿で私たちのもとに来てくださったインマヌエルは、致命的な墮落で死と地獄に落ちるのが決定的となり、無数の汚点と腐敗であらゆる呪いの下にある私たちが到底行うことできないことを私たちに代わってして下さるのです(ローマ5:8)。人は人なのですがその方は全く罪のない方であるということです。本物の人になられたインマヌエルはそのような橋の兩岸を完全に結ぶことができるのです(ヘブライ4:15、テモテ2:5)。

その仲保者の任務とは何でしょうか。それは私たちがもう一度神の恵みを受けるようにさせることです。そして人間の子である私たちが神の子になって、地獄の住民となっている私たちが天国の住民となるようにすることです。そのために第一に、その仲保者は私たちの兄弟とならなければなりません。彼は私たちの肉と骨をとって自分の肉と骨とされ、私たちと一つとなられました(エフェソ5:29~31、創世記2:23、24)。私たちと一つの兄弟となられ(ヨハネ20:17)、その兄弟とされた私たちは初めて彼と共に天国を遺産として受け取るようにされるのです(ローマ8:17)。

そして第二に仲保者は罪を征服し、死を滅し、悪魔の業に勝利しなければなりません(ヨハネ3:8)。彼がアダムに代わって神に従順に従おうとするならば、必ず人でなければなりませんし、また私たちの罪を引き受けて死のうとするならば、必ず人でなければなりません。その反面、罪と死に勝利しようとするなら、神でなければならぬのです。

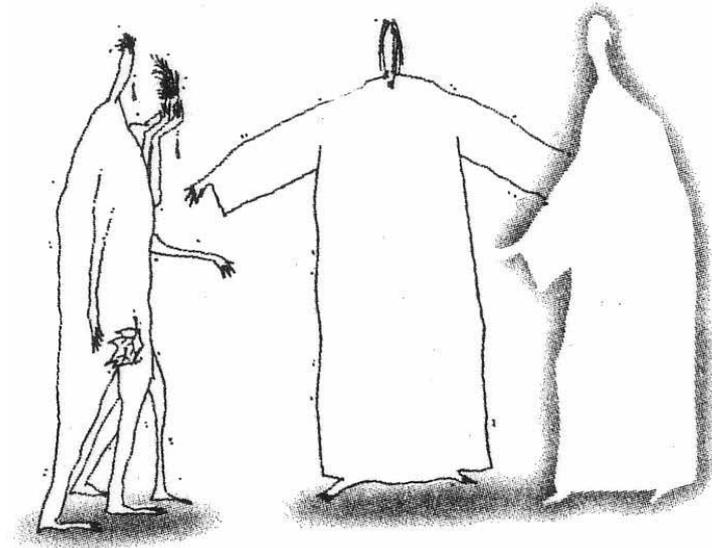
私たちにこのような仲保者がおられるということはなんとすばらしい知らせでしょうか。福音は私たちが神の子と交わり、神と交わることができることを保証するものです(参考、ヨハネ17:21、ヨハネ1:1~3)。またそれは私たちもキリストのように罪と死に勝利し、復活にあずかれることを確認させてくれる知らせでもあるのです(参考、コリント15:20~22、テサロニケ4:14)。

第2節 キリストが人となられた唯一の目的はただ私たちの救いのためです。

オジアンダー(Osiander アンドレアス・オジアンダー(1498-1552))やセルベトスのような異端者たちは人類が救われる必要がなかったとしてもキリストはやはり人となられたらと主張しています。馬鹿げた者たちの好奇心には常に翼が生えており、その羽によってあちらこちらに飛んでいきます。彼らはまた、この点でも記録されたみ言葉の範囲を遙かに飛び出してしまっているのです(参考、コリント4:6)。しかし、聖書の記録は明らかです。

すべての被造物よりも前に生まれた者(コロサイ1:15)であり、墮落する以前はもろろのこと、すべての被造物の頭であられたキリストが私たちのような体をとられたのはただ私たちの救

い主となられようとしたためであると聖書は語っています(参照、テモテ 1:15、ヨハネ 4:14、5:6)、ヨハネも語りましたがキリストが肉をとられた(ヨハネ 1:14)理由は人類の背きのためだと説明しています(ヨハネ1:9~11)、そしてさらに神が御子を世に人として遣わされた理由は「独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」(ヨハネ 3:16)と語っているのです。

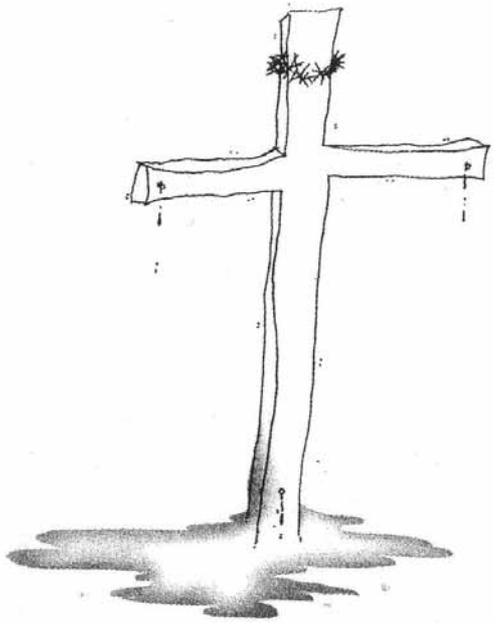


マタイもイエスのみ言葉をその通りに引用して「人の子は、失われたものを救うために来た」(マタイ 18:11)と証言しています(参照:ヨハネ 10:17、15、12:23、27、28)。またすべての使徒たちも異口同音に証言しています。キリストが人として私たちのところに来られたのはただ私たちを救い出す橋となられるためなのです。血を流すことができなければならぬためにキリストは人とならなければなりません(ヘブライ 9:22)。彼が罪の下にある私たちを助ける永遠の大祭司となられるためにはただ人としてこの地上に来なければなりません(イザヤ 53:4~6、ヘブライ 9:11、12、5:1、コリント 5:19、ローマ 8:3、4)。ですからキリストが人となれた理由や目的についてこの他に説明を付け加えることは非常に馬鹿げたことだと言えるのです。

第3節 アダムが罪を犯さなくてもキリストはやはり人なられたのか？

オジアンダーは次のように主張します。キリストが人として来られたことと、私たちが愛し、私たちを救い出そうとされたこととの間には関係はないと言うのです。しかし、聖書はその二つの事柄が切り離すことができない関係にあることを語っています。二つの事柄はこれがなければそれもなく、それがなければこれもない関係にあると言っているのです。ですからキリストが人となれたことは私たちの罪との関係からだけ説明が可能なのです。「キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです」(ヘブライ 9:28)。キリストが最初に地上に来られた理由はただ私たちの罪のためであったのです。

使徒パウロもエフェソの信徒への手紙でキリストが世に来られた目的を説明するために神秘的な神の聖定の世界まで遙かに遡って、オジアンダーが示したようないい加減で軽率な好奇心に釘をさしています。「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです。神がその愛する御子によって与えてくだ



さった輝かしい恵みを、わたしたちがたたえるためです。わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです」(エフェソ 1:4~7)

世に現わされたすべてのことはみな創造の前に神が聖定されたものです。すでに永遠の前に神は人類の悲慘を癒そうとしてこれらのことを聖定されたのです。そして神のその御心は私たちをキリストの血によって救い出されることで成就されました。ですからこのみ言葉が宣言する二つの事柄の外に踏み出して行く者たちは不敬虔で、馬鹿げた好奇心によって全く新しい種類のキリストを作り上げようとする人々なのです。

神と神のなされたすべての厳かな事柄に対して私たちの好奇心は謙遜に退かなければなりません。私たちはその事柄を解き明かしてくださるみ言葉の内に留まり、その中で満足し、それを喜ぶことが大切なのです。私たちは永遠という言葉に対してさえいったいどれくらいのことを知っていると言えるのでしょうか。

ですから私たちは次のみ言葉の内側に踏みとどまることにしましょう。第一に、キリストは罪人を救おうとされるために人となり、世に来てくださいました(テモテ 1:15)。そしてこの恵みは永遠の前からキリストにあって私たちに与えられたものなのです(テモテ 1:9)。私たちは終わり日までこの恵みの内に止まるように決心しなければなりません(テトス 3:9)。いたずらに想像の愚かな羽を広げないようにしましょう(参照、第1編第14章「鉄条網の奇跡」)。

第4節 神の形に対するオジアンダーの主張は本当に幼稚なものです。

人はなぜ神の形に創造されたと言われているのでしょうか。オジアンダーの説明はこのようなものです。すなわち、神はすでに永遠の前からキリストが肉体をとられるように聖定され、人はそのようなキリストの模型(肉体)に従って造られたというのです。そのためキリストが人の形をとられてこの世に来てくださったのではなく、むしろ人がやがて来られるキリストの姿に従って造られたと言うのです。

ですから天使はキリストの形(人の体)がないので人よりも劣っていると語ります。しかし、聖書はむしろ人の体をとったキリストが天使よりも劣っていると語ります(参照、詩編 8:5、ヘブライ 2:9、コリント 11:10)。そして天使の高貴な位置を何度も証言しているのです(参照、詩編 103:20、黙示録 14:10、マタイ 13:41、22:30)。天使も神の形に造られた被造物として、人のような体を持ってはいませんが、その高貴さは人よりも劣るものではないのです(参照、ルカ 20:36、黙示録 22:8、9)。

また人が神の形に従って作られたことは人間が他のすべての生物に比べて卓越した何かを受けているということであって、人の体がほかの動物の体に比べて甚だしく違った何かを持っている

という意味ではありません。人を動物と完全に区別させるものは体ではなく、人の霊魂とその内から生まれてくる人間だけが持つ独特の性質です（参照、第1編 15章、創世 1:27 以下）

また、聖書は何度も私たちがキリストの体に従って創造されたのではなく、キリストが私たちの体をとられてこの世に来てくださったと証言しています。キリストは最初のアダムではなく第二のアダムと呼ばれています（コリント 15:47）。アダムがキリストの子孫なのではなく、キリストがアダムの子孫だと語っているのです（ルカ 3:38）。キリストが人の体をとられたという点ではそう言えるのです。

そのように計画に従って、定められた時に人の体をとってこの地上に来られたキリストは永遠の前から人の体とは関係なくとも、神の形の輝きが満ちておられ、万物の頭として存在される神であられたのです（コロサイ 1:18、15、ガラテヤ 4:4、5）。ですから、アダムが、キリストのために準備された体を先にとって造られたと言うわけではありません。また人間はその体のために神の形を持っているのでもありません。ですから当然にキリストがアダムの体をとられて世に来られたと言えるのです。このようにオジアンダーは愚かな方法でキリストを仲保者としての位置から引き下ろそうとしているのです。

結びの言葉

神と私たち人間の間を結ぶ完全な橋となろうとするならば少なくとも次の二つの条件を満たしている必要があります。第一に神であられると同時に人でなければなりません。そして、第二に人であったとしても全く罪があってはならないのです。キリストお一人の他に（使徒 4:12）誰がそれをする事が可能でしょうか。